

# 2006年度の紙パック回収率

堅調に伸び続ける  
紙パックの回収率。2006年度は  
37.4%となりました。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2007年5月～8月に実施され、2006年度のリサイクルの状況が明らかになりました。

紙パック全体の回収率(産業損紙・古紙を含む)は37.4%と、前年度比+1.2ポイント増。また使用済み紙パック回収率(家庭系+学乳などの事業系)が26.4%(前年度比+0.6ポイント)と、回収率は堅調に伸びており、リサイクル活動が着実に拡大している結果となりました。

※2006年度の調査では、紙容器メーカー9社・飲料メーカー289社・小学校2,251校・1,827市町村・スーパーマーケット204社・再生紙メーカー43社・市民団体および福祉作業所7を調査対象としました。

※紙パックの製造工程と飲料充填工程で発生した不良原紙、端材、在庫処分品などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。

※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

## 2006年度の紙パック回収率

紙パック回収率  
(産業損紙・古紙含む)

**37.4%**

(2005年度 36.2%)

=再生紙メーカー国内受入量÷紙パック原紙国内使用量  
=96.4千トン÷257.8千トン

使用済み紙パック回収率  
(使用された紙パック)

**26.4%**

(2005年度 25.8%)

=使用済み紙パック回収量÷紙パック出荷量  
=57.1千トン÷216.8千トン

自治体の紙パック取引価格が  
上昇しています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長くて太いことなどから、良質の再生紙原料といえます。このため、他の古紙より比較的高値で取引されています。自治体の紙パックの取引価格は、それぞれの市町村によって価格を決める条件がさまざま、標準的な価格を出すのは困難ですが、ここでは単独取引価格であるなどの条件のもとで、取引先別に、引き渡しか、持ち込みかといった条件と合わせて取引価格を集計しました。

結果を見ると、古紙直納問屋への引き渡しや再生紙メーカーへの持ち込みで、高値の取引が行われています。また全体平均でも、前年度を1円/kgほど上回っていました。これは国際的な古紙需要の増加が背景の一つだと考えられます。

## 紙パック古紙の取引価格

		2004年度	2005年度	2006年度	
市町村回収	古紙回収業者	引き渡し	5.4	5.7	6.6
		持ち込み	5.4	5.8	6.1
	古紙直納問屋	引き渡し	8.3	6.1	8.4
		持ち込み	5.8	5.8	7.4
	再生紙メーカー	引き渡し	6.6	6.0	5.4
		持ち込み	7.7	7.9	8.9
集団回収	引き渡し	3.9	3.9	4.2	
	持ち込み	4.6	4.4	5.5	

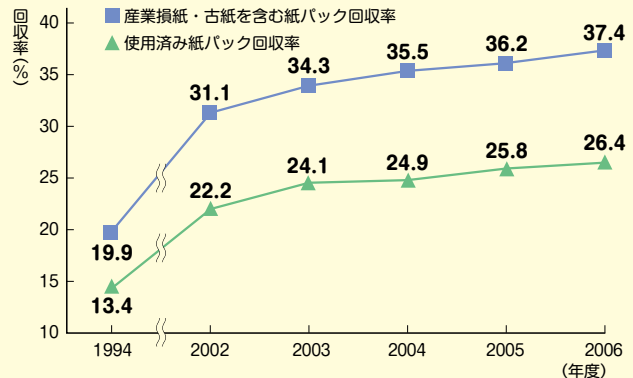
(円/kg)



## 使用済み紙パックの回収量が 着実に増加しています。

右の図のように調査開始以来、紙パックの回収率は着実に伸長しています。これを回収量で表したのが下の表です。2006年度の回収量は全体で96.4千トンと、前年に比べて5.1千トン(+5.6%)の増加。そのうち使用済み紙パックの増加は、1.4千トンでした。

紙パックの回収率の推移



主要データの推移 (千トン)

区分	1994年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	前年度比
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	232.9	242.3	246.3	252.4	257.8	2.1%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	26.4	30.7	32.2	33.9	36.9	8.8%
飲料メーカー産業損紙発生量	-	4.1	4.4	3.0	2.4	3.2	31.4%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	198.2	204.6	213.2	215.9	216.8	0.4%
家庭系(C)	168.7	171.8	181.1	188.4	191.5	191.2	-0.2%
自販機等(事業系)	18.5	16.5	13.6	15.2	12.8	13.5	5.0%
学乳(事業系)	10.7	9.9	9.9	9.6	11.5	12.0	4.5%
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	44.0	49.3	53.2	55.7	57.1	2.6%
家庭系回収量(E)	25.9	39.9	44.3	46.3	47.5	48.1	1.3%
店頭回収量	13.8	18.8	23.7	25.0	25.4	24.4	-3.7%
市町村回収量	4.3	12.0	11.9	12.3	12.6	13.6	8.0%
集団回収量	7.8	9.1	8.7	9.0	9.6	10.1	5.6%
事業系回収量(F)	0.6	4.1	5.0	6.9	8.2	9.0	10.4%
学乳紙パック回収量	0.6	4.1	5.0	6.3	7.4	8.4	12.6%
自販機・飲食店等	-	-	-	0.6	0.7	0.6	-12.7%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	28.5	33.7	34.3	35.6	39.2	10.2%
紙パックメーカー回収量	16.5	26.4	30.3	32.2	33.9	36.9	8.9%
飲料メーカー回収量	-	2.1	3.5	2.1	1.7	2.3	38.1%
再生紙メーカー国内紙パック受入量(H)=(D)+(G)	43.0	72.5	83.1	87.5	91.3	96.4	5.6%
紙パック古紙輸入量	-	7.2	15.7	2.7	3.4	10.3	205.6%
紙パック総受入量	43.0	79.7	98.7	90.2	94.6	106.7	12.7%
紙パック再資源化量	30.1	61.7	73.0	67.5	70.7	80.2	13.4%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	31.1%	34.3%	35.5%	36.2%	37.4%	+1.2P
使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	22.2%	24.1%	24.9%	25.8%	26.4%	+0.6P
家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	23.2%	24.5%	24.6%	24.8%	25.2%	+0.4P

※マテリアルフローとの対応をわかりやすくするために、前年度までの推移表から標記項目及び標記順の変更を行っています。

※歩留率は、1994年度は70%、2001年度以降はアンケート調査により求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。

※2005年度は、学乳紙パックの重量の見直しを行い、他の項目の値も一部影響を受けています。

※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

# 2006年度 紙パックマテリアルフロー

2006年度の飲料用紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン  
 ※( )内は2005年度との差です。  
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

